

IV-4

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林幼稚園

開園式と旧園舎

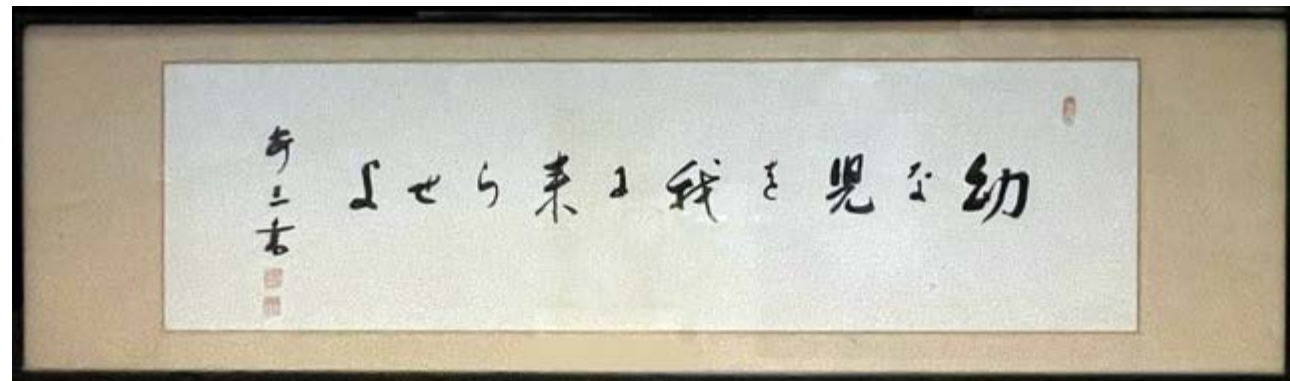
1968年4月、学園で5番目の設置校として幼稚園が開園した。園舎は町田街道に面した場所にたち、学園外からも良く見渡せた。床暖房が設備され、当時としては最先端の施設であった。

建学者 清水安三は、幼児教育について次のように述べている。

「本学園が、幼稚園のために努力奮闘しているわけは、幼児教育なるものが、非常に大切なものであるためである。少々声を強めて言うならば、幼児教育なるものは、初等・中等教育、さては、高等教育にもまして教育上、より大切なものであるかも知れない。

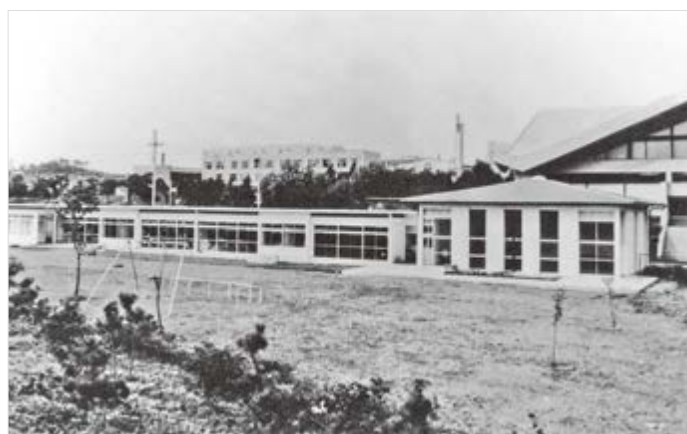
おおよ子どもたちは、1歳から10歳までは、11歳から20歳までよりも周囲の感化を受け易いのである。そうであるならば、幼稚園時代すなわち1歳から5歳までの幼児こそは、何れの年代の子どもよりも、より多く感化を受け易いわけである。そうと知れば、何人も何はさておいても、幼稚園時代の教育をば、大いに重んずることであろう。」

まさに教育の原点となる、家庭教育に続く幼児教育の重要性を述べたことは、清水の幼児教育に対する思いと先見性が窺える。



■「幼な子を我に來せよ」(1968年頃)

旧園舎時代から玄関に掲げられている清水安三の書。マルコによる福音書第10章14節。



■開園当初の園舎全景(1968年頃)

平屋建て、現在のスクールバス発着所付近に建てられた。



■開園式次第(1968年)

讃美歌「はなよ はなよ」は現在も入園式で歌われている。



■第1回入園式(1968年)

前列左端が清水安三初代園長、右端が松本良子主任。



■外遊びの時間(1968年頃)

園庭大型遊具(回旋塔)で遊ぶ園児。



■第2回運動会(1969年)

保護者が見守る中で行進する園児。



■宿泊保育(1987年)

宿泊保育は学園所有の「小諸山荘」で行われた。夕食のひと時。



■宿泊保育(1987年)

早天礼拝の様子。奥は小諸山荘。

IV-4

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林幼稚園

キリスト教保育

「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。」（伝道の書第12章1節）

幼児期において大切なことは、子どもが安心して過ごす環境を整えることとともに、愛されて過ごすことである。キリスト教保育は、聖書の教えを日々の教育・保育の中に取り入れ、神の愛を伝え、神の愛に触れることによって生涯にわたる生き方の基礎を培い、子どもたちの心を養う営みである。祈りを献げることによって一日が始まり、祈りをもって一日が終わる。年間を通して教会暦に基づき、イースター礼拝、花の日礼拝、収穫感謝礼拝、クリスマス礼拝などが行われる。中でもクリスマス礼拝、ページェント（聖誕劇）は園児・保護者共に礼拝を献げる機会となっている。

入園式、卒園式、進級式、修了式などの式典は、礼拝形式で開催され、保護者会、保護者向け講演会など、保護者に対してキリスト教に触れる機会を設けている。



■お祈りの時間（1982年）
宿泊保育を終え、帰りの会集にて園児とともに祈る清水安三。



■学年合同礼拝（2020年）
堂本陽子中高チャプレンによる学年合同礼拝。写真は年長組。



■クリスマス礼拝（2021年）
保護者と共にクリスマス礼拝を献げる。祝祷は土橋敏良学園チャプレン。



■花の日礼拝（2014年）
各家庭から持ち寄った花を飾り、礼拝が献げられる。右端は羽根田実第5代園長。



■年長組花配り（1983年）
花の日礼拝の後、学園内をはじめ福祉施設や警察・消防署に園児が花を届け、感謝を表す。



■収穫感謝礼拝（2021年）
秋の収穫物を前に飾り、礼拝が献げられる。



■収穫感謝礼拝後の寸劇（2019年）
収穫の喜びを教員が演じる。



■クリスマス礼拝・聖誕劇（1970年代初め）
クリスマス礼拝の後、聖誕劇を演じる。旧園舎にて年長組。



■クリスマス礼拝・聖誕劇（2019年）
年少組、年中組は聖歌隊。

IV-4

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林幼稚園

新園舎と特色ある教育

1987年4月現在の位置に新園舎が竣工し、旧園舎から移転した。新園舎は、子どもの自ら成長する力を尊重し、育む「コーナー保育」や、観察室を備えた「モンテッソーリの部屋」等が設計され、環境を通して子どもの発達を促す工夫が、建物随所に施された最先端のものであった。また2013年4月には、学園が前年度に購入した隣接建物の内部を改装し、モンテッソーリ教育専用施設「お仕事のおうち」を開設した。

モンテッソーリ教育は、松本良子教頭による開園当初からの構想であり、1985年に導入した。その後、時代の変遷とともに形を変えながら引き継がれ、現在に至っている。

本園の特色は、「キリスト教保育」、「専門家による英語教育・体育指導」、「社会性を育てる」、「自立心を育てる」、「学園をあげての協力体制」であり、本物との出会いの機会を多く提供している。

「わらじ教育」は40年以上実践され、足裏の成長を促すことが立証されている。



■新園舎（2008年）
1987年4月竣工、6月献堂式が行われる。



■ステンドグラス（2019年）
園舎2階に続く階段踊り場に設置されたステンドグラス。



■モンテッソーリメソッド（左：2019年、右：2020年）
「お仕事のおうち」での活動、思い思いに取り組む園児。



■お仕事のおうち（2019年）
2013年4月、新たにモンテッソーリ教育専用施設として供用開始。



■専門教育 体育（2020年）
楽しみながら体を動かす園児。



■専門教育 英語（2007年）
ネイティブスピーカーによる授業。多様な文化、言語に触れる機会。



■わらじ保育（2019年）
園庭ではわらじを履き活動している。40年来の伝統となっている。



■お山遊び（2007年）
隣接する「復活の丘」で伸び伸びと遊ぶ園児。

IV-4

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林幼稚園

新たな取り組み

少子化が進み新入園児の確保が難しくなりつつある中、幼稚園のプランディング化と向上を図る取り組みを行い、他園との差別化を図っている。まず教育目標を、建学の精神を受けて「子どもたちが互いに愛し合い、多様な文化や考え方、違いを受け入れ、自立と自律をし、将来持続可能な平和を築く人になる」として整理した。次に、カリキュラムを入園から卒園まで、体系的になるように見直しをした。インクルーシブ教育、小学校との接続の課題にも取り組んでいる。

大学、中学・高等学校と連携することで教育・保育の幅を広げ、園児のみならず、大学生も中高生とともに育つ場として幼稚園が活用されることを目指している。大学教員による昆虫観察、顕微鏡観察、大学保育専修学生による子ども祭りの参加、草の根国際理解教育支援プロジェクトとの連携、大学生・中高生のボランティア受け入れ、高校生による野球教室の開催、桜美林ガーデンヒルズ入居者との交流など、学園の持つさまざまな教育資源を活用している。

近年、共働き世帯の増加により、子育て支援が求められてきている。預かり保育の充実など新たな取り組みを行い「福祉」の充実を図ることで、地域にいっそう支持される幼稚園を目指している。



■ 大学との連携 顕微鏡観察 (2019 年)
実体顕微鏡で植物の種を観察する園児。



■ 大学との連携 昆虫観察 (2018 年)
復活の丘で昆虫採集をし、大学教員から説明を受ける園児。



■ 大学との連携 国際理解教育 (2019 年)
子ども祭りにて世界の民族衣装に身を包む園児。



■ 中高との連携 野球教室 (2019 年)
高等学校野球部の指導による野球教室。



■ 地域連携 サッカー教室 (2019 年)
町田ゼルビアスポーツクラブの協力を得て、「出前サッカー教室」を開催。



■ 未就園児クラスの充実 (2018 年)
2017 年度から週 1 回、親子で遊ぶクラス「はなぐみ」を開設。



■ 給食の開始 (2019 年)
2018 年度から多様な食を体験する機会として、給食を導入。



■ 父親の会主催流しそうめん (2018 年)
竹の加工から、そうめんの準備、子どもの世話をするお父様方。